

入賞

笑顔が豊富な福島へ

福島県立ふたば未来学園中学校2年 ^{ミヤケ}三宅 ^{エミ}恵未

三月十一日、マグニチュード九の大地震が起こりました。この地震で何人もの方が亡くなりました。家族を失った人、この故郷を失った人、たくさんいるはずです。震災後、「こんな大地震忘れたい」と思う人がいます。でも毎年思い出す理由は桜があるからです。桜があることで今の福島はどんどん変わっていています。

私は県外から今の中学校に入学してきました。ですから震災当時の事はよくわかりませんでした。そんな私が詳しく震災に興味を持ったのは、中一の十二月に「子供の元気と笑顔と風船をありがとう」という広野のプロジェクトに参加したからです。そこで千個の風船と復興の福島への思いを空へ飛ばしました。震災で亡くなってしまった人に今まで福島を支えてくれてありがとうとの思いを込めました。桜を植えようと話を進めてくれた人にも感謝の気持ちを伝えました。このプロジェクトから私の広野への思いが「震災前よりきれいな福島にしよう」という思いへ変わり、復興にもっと協力しようと思うようになりました。

新しい福島への思いから、広野の行事に参加しました。一つは桜ウォークです。広野を歩きながらごみ拾いをしてきれいな福島への第一歩を踏み出しました。歩きながらみんなの思いがこもっている桜を見ながら地域の人に話を聞いて、震災当時の、人々の避難所での生活の苦しさを身に染みて感じました。震災の年も桜はきれいに咲いたそうです。でも桜を見て思い出すのはあの時の思い。桜からは震災当時の大変さ、苦しさ、悲しみが伝わってきました。震災を経験していない自分でさえこの思いが身にしみてわかるのなら、この作文を通して、他のみんなにも伝える意味はあると思います。私はこの思いを全国民に広げたいと思います。

震災の事を伝えるために実際に震災を経験した広野のプロジェクトを毎回企画してくださっている広野町の西本さんにお話を聞きました。話の中で二つ話題があり

ました。一つは桜についてです。まずなぜ桜を植えるのかというと、震災と一緒に経験した桜から震災当時を思い出すからです。始まりは高校生との約束から始まったそうです。震災が起こる前から地域づくりのために桜を植える計画をしていました。桜が咲き美しい広野にしようとして取り組んでいた矢先に東日本大震災が発生しました。桜の事なんて忘れていたくらい厳しかったそうです。震災後、あの日の高校生との約束を思い出し福島の「桜プロジェクト」が始まったそうです。この震災を共に過ごしてきた桜が必要で福島には欠けてはならないものだと思います。これからも一緒に生きていき沢山の思い出を桜に残していきたいです。

二つ目は子供の笑顔が大人を元気にすることです。大人は震災時ずっと働いて「何度あきらめそうになった。」と言っていました。そんな時に元気をくれるのは子供だったのです。作業をしている時、子供が走り回って楽しそうな笑顔を見るたびに元気をもらいましたと言っていました。その話を聞き私ができること。それは笑顔で挨拶しながら、地域の環境をきれいにすることです。ごみ一つない町にする。ランニングがてら、ごみを拾う。そして、通りすがりの人に元気な声であいさつをして町の人をみんな笑顔にしたい。きれいな環境と笑顔。これからも続けていきたいです。